

持続化補助金活用事例

新日本料理 豊山

JR四街道駅から徒歩約10分の住宅街にある新日本料理店豊山。代表の若松直樹さんが平成12年に日本料理店としてオープンしました。今回の持続化補助金活用事例のインタビュー先です。若松さんは魚屋及び懐石料理店で7年間板前として修行。その後、富山県の料理店でも修行をし、地元千葉に戻ってから現在の場所に自身の日本料理店をオープンして26年になります。富山県の豊富な食材に魅了され、豊富な富山県の食材を使った日本料理店を目指したく、「豊山（とやま）」と名付けたそうです。現在でも約20%は富山県の食材を使っており、富山県の氷見漁港や千葉県漁港から直接届く新鮮な魚介類及び30社以上の仕入先から仕入れる新鮮な食材を使った季節料理が楽しめます。「美味しい料理を食べながら家族とゆっくりとした時間を過ごしてもらおう」そんな信念を持つ若松さんのお店はお酒も豊富に取り揃えているそうで、キープされたボトルも棚狭しと並んでいました。



そんな新日本料理店豊山は今回、持続化補助金を利用して掘りごたつを導入しました。

今回、どうして掘りごたつを導入したのですか？

「足腰が痛む高齢の方や子供達が安心してくつろげるお店を作りたいからです」
申請にあたって苦労はありましたか？



「以前何度か補助金申請するも不採択だったのを覚えています。今回は商工会さんや専門家の方と何度も打ち合わせをして書類を作成しました。一緒に作成したからこそ、採択につながったのだと思います。」

掘りごたつの評判はどうですか？

「とてもいいですよ。テーブル以外にもくつろげる空間が増えたことで、お客様に満足していただいています。」

この記事を読んでいる皆さん向けに、最後に一押し一品を教えてください！

「冬期はふぐコースをご用意しています。当店は千葉県ふぐ連盟に加入しており、安心安全なおいしいふぐを提供しています。ぜひよろしければお待ちしております。」

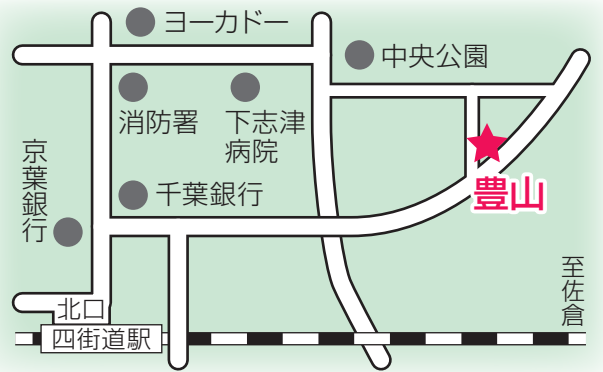
とやま 新日本料理 豊山

千葉県四街道市鹿渡812-5

☎ (043) 422-1192

四街道駅北口より徒歩約10分

毎週月曜日定休 駐車場完備



販路開拓の目

VRで視力回復!?

「VRをプレイすることで視力が回復する」と聞いて、どう思われるでしょうか。「回復するのではなく悪くなりそう」、「画面を見ているのだから回復する訳がない」このように考えられた方は少なくないかもしれません。

しかし、実際にはVRを日々プレイすることによって、視力が回復したという事例は世界中に存在しているのです。視力回復の理由としてVRプレイ中は、左右別々の画面を視差映像で映されることにより「立体的な仮想空間上の点」に目の焦点が合っている状態になることが挙げられます。これによりプレイ中は遠くを見ていることになり、普段使わない目の周りの筋肉が刺激され、その結果、日常生活において視力が回復すると考えられるのです。

2022年に、住友商事とVRベンチャーのイマクリエイト、順天堂大学発ベンチャーのInnoJinがVRを利用した視力回復トレーニングアプリの開発を発表しました。VRを活用した子供向けの弱視治療アプリであり、2025年の薬事承認を目指しているといえます。まだまだ発展途上の分野ではありますが、VRを利用した視力治療は可能性に満ちているといえるでしょう。今後も市場規模を拡大することが予想されている分野だけに、大きな注目を集め続けるはず。

